別記第４号様式（第７条関係）

**身体障害者診断書・意見書**

**総　括　表**　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（　　　　　　　　　　障害用）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 氏　名 | 　　　　　年　　　月　　　日生 | 男　　女 |
| 住　所　　 |
| ①障害名（部位を明記） |
| ②原因となった疾病・外傷名 | 交通、労災、その他の事故、戦傷、戦災自然災害、疾病、先天性、その他（　　　） |
| ③疾病・外傷発生年月日　　　　　　年　　　月　　　日　・　場所　　 |
| ④参考となる経過・現症（エックス線写真及び検査所見を含む。）障害固定又は障害確定（推定）　　　　　年　　月　　日 |
| ⑤総合所見〔将来再認定　　　要・不要　〕　（再認定の時期　　　　年　　月） |
| ⑥その他参考となる合併症状 |
| 　上記のとおり診断する。併せて次の意見を付す。　　　　　　年　　　月　　　日　　　　　病院又は診療所の名称　　　　　所在地　　　　　診療担当科名　　　　　　　　　　　　科　医師氏名　　　　　　　　　　 |
| 　身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号）第15条第3項の意見　(障害程度等級についても参考意見を記入）　　障害の程度は、身体障害者福祉法別表に掲げる障害に　　　　　　　　・該当する　　　（　　　　　級相当）　　　　　　　　・該当しない |
| 注意　１　障害名には現在起こっている障害、例えば両眼視力障害、両耳ろう、右上下肢麻痺、心臓機能障害等を記入し、原因となった疾病には緑内障、先天性難聴、脳卒中、僧帽弁膜狭窄等原因となった疾病名を記入してください。　　　２　歯科矯正治療等の適応の判断を要する症例については、歯科医師による診断書・意見書（別紙）を添付してください。　　　３　障害区分や等級決定のため、北海道社会福祉審議会から改めて次ページ以降の部分についてお問い合わせする場合があります。 |

**呼吸器の機能障害の状況及び所見**

|  |
| --- |
| （該当するものを○で囲むこと。）**１　身体計測**　　　身長　　　　　　ｃｍ　　　　　　体重　　　　　　ｋｇ**２　活動能力の程度**（１）　激しい運動をした時だけ息切れがある。（２）　平坦な道を早足で歩く、あるいや緩やかな上り坂を歩く時に息切れがある。（３）　息切れがあるので、同年代の人より平坦な道を歩くのが遅い、あるいは平坦な道を自分のペースで歩いている時、息切れのために立ち止まることがある。（４）　平坦な道を約100ｍ、あるいは数分歩くと息切れのために立ち止まる。（５）　息切れがひどく家から出られない、あるいは衣服の着替えをする時にも息切れがある。**３　胸部エックス線写真所見　　（　　年　　月　　日）**（１）　胸膜癒着　　　　　　（無・軽度・中等度・高度）（２）　気腫化　　　　　　　（無・軽度・中等度・高度）（３）　線維化　　　　　　　（無・軽度・中等度・高度）（４）　不透明肺　　　　　　（無・軽度・中等度・高度）（５）　胸郭変形　　　　　　（無・軽度・中等度・高度）（６）　心・縦隔の変形　　　（無・軽度・中等度・高度）**４　換気機能**（　　年　　月　　日）（１）　予測肺活量　　　　　　　ℓ　　（実測肺活量　　　　　　　　　　ℓ）（２）　　１秒量　　　　　　　　　ℓ　　（実測努力肺活量　　　　　　　　ℓ）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（３）　　予測肺活量１秒率％（＝×100）注１　（１）の予定肺活量については、次の予測式を使用して算出すること。ただし、予測式の適応年齢は、男性１８歳から９１歳まで、女性１８歳から９５歳までであるので、適応年齢範囲外の症例には使用しないこと。　肺活量予測式（ℓ）　　男性　0.045×身長(cm)－0.023×年齢(歳)－2.258　　女性　0.032×身長(cm)－0.018×年齢(歳)－1.178**５　動脈血ガス（　　年　　月　　日）**（１）　　Ｏ₂ 分圧　　　　　　　　　Torr　（２）　　ＣＯ₂分圧　　　　　　　　 Torr（３）　　ｐＨ　　（４）　　採血から分析までに時間を要した場合　　　　　　　　　時間　　　　分（５）　　耳朶血を用いた場合：〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕注２　動脈血の採血及び分析は、安静恒常状態において次に掲げる条件下で行うこと。（１）　採血時の体位は背臥位であること。（２）　採血時の吸入ガスは室内気呼吸中のものであること。なお、Ｏ₂分圧については、本人の状況により酸素吸入中の数値しか得られない場合、吸入気の酸素濃度及び酸素投与の方法を記入すること。この場合、障害区分や等級決定に当たり、改めて問合わせをする場合があります。（３）　採血後、分析を５～１０分以内に速やかに行うこと。**６　その他の臨床所見・検査所見** |

